

クラス担任のための Career Guidance

2013 >> VOL.18

キャリアガイダンス 特別編集



対話力を育む

コミュニケーション力や対話力を育むことが大事だとわかっていても、その実践は難しいと感じている先生も多いのでは？ 今回はそんな対話力を育むヒントをご紹介します。

土台となる学級運営を考える

取材文/清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

「対話」を促進するには 安心感を得られる「場作り」が大切

学生に自己PRしてもらうと、「自分にはコミュニケーション力がある」とよく言う。しかし、具体的に話を聞いてみると、自分の意見を押し通せることや、逆に人の話を聞くだけで波風を立てないことを「コミュニケーション力」と言っていることが少なくない。ディスカッションが苦手な学生も多い。その根底には、個と個がしっかりと向き合った「対話」を行う機会の不足があるのではないだろうか。コミュニケーションは単なるおしゃべりだけではなく、「対話」であるべき。そこで、「対話」の機会を生み出すためのヒントを探りに、東京大学大学院学際情報学府の中原淳研究室が主催した「対話を生み出す、実践知」を、トップランナーから学ぶ「シンポジウム」にお邪魔した。

シンポジウム「対話を生み出す“実践知”を、トップランナーから学ぶ」

撮影/大崎えりや



7月6日(土)12:30~17:30に、東京大学本郷キャンパスで開催されたシンポジウム。「大学の学びを科学する」東京大学大学院総合教育センター准教授・中原淳先生と研究室メンバーが主催した。単なる講演会ではなく、話の中で感じたことを周囲の人と「対話」したり、感想を共有したり。「大人と子どもの対話」をテーマにしたケーキとコーヒーも準備され、楽しく対話を深めるきっかけがたくさんあった。当日の記録は、中原先生のブログにもアップされている。



「餃子ジャンケン」の見本を行う3人の先生。



人との距離を感じるワークを参加者全員が経験した。

中原先生のブログはコチラ

http://www.nakahara-lab.net/blog/2013/07/post_2046.html

【登壇者プロフィール】



菊池省三 (きくちしゅうぞう)
北九州市立小倉中央小学校教諭、全国ネット「菊池道場」主宰。前任校・北九州市立貴船小学校から続くさまざまな授業改革・学級作りが話題となる。その様子は、NHK「12歳の白熱教室〜考える力を育む授業〜」、「プロフェッショナル 仕事の流儀」などでも紹介される。主な著書に、「子ども熟識NOW」、「一人ひとりが輝くほめ言葉のシャワー」、「菊池省三の話し合い指導術」、「学級崩壊立て直し講演人：大人と子どもで取り組む「言葉」教育改革」(共著)など多数。



加藤雅則 (かとうまさのり)
株式会社アクション・デザイン代表、ICF認定プロフェッショナル・コーチ、博報堂大学講師、プロセス・ファンリテーター、組織インタビューとして活躍。学校教員向けのコーチング・トレーニング・プログラム(TALK)の開発責任者を務めたほか、さまざまな企業や組織で「本音の対話」を実践する。主な著書に「自分を立てなおす対話」、「ナラティブ・アプローチ」(共著)などがある。

日々の小さな積み重ねが 豊かな対話を生み出す

高校で担任ができる「場作り」は、日頃から生徒同士が安心して話ができる雰囲気を作り、話すきっかけをた

くさん設けることではないだろうか。子どもたちの対話を徹底的に深めてきた菊池先生も、「学級運営の延長線上にコミュニケーション力がある」と話

徹底的に肯定し、 「楽しい」を実感させる

菊池先生の場作りは徹底しているのは、生徒の言動をしっかり受け止めて「ほめる」点。叱るのではなく、良いところをみつけて伸ばす。また、横並びでほ

い。認めてもらいたいです。自分が言われてうれしかったことは、次にほかの人にも同じようにしようと思います。そして、ほかの人の違いを発見して楽しめるようになるのです」

菊池先生の人間関係作りと対話のトレーニング

「ほめ言葉のシャワー」 一人ひとりの良いところを生徒同士がみつつけ合うことで、自尊感情や絆の強い人間関係を生む

【方法】①毎日1人ずつ。30人いれば30日で一巡する。1年間に4巡くらいは行う。②1巡につき、各自1枚ずつ日めくりカレンダーを描く(日にちと曜日、自分の名前、みんなへのメッセージ、その日の主な行事など。イラストや好きな言葉などでもOK)。③その日のカレンダーを書いた生徒が教室の前に出る。④一人ずつ生徒が立ってその人の良いところを伝える。一人がほめると、次の生徒が立ち、どんどん次々に続ける。シャワーなので、間がなくなるかのように。特に指名しなくても、やり方を伝えることで動き始めることが多い。⑤全員の発表が終わったら、前に出ていた生徒がお礼のスピーチをする。⑥最後に教師がコメントを述べる。例えば誰かが会釈をしたら「それはいいね」とほめてあげたり、「ありがとう」という生徒がいれば「お礼を言うのいいね」など、教師自身も生徒の言動を「ほめる」ことが大事。

「友だち紹介質問ゲーム」 お互いを知るための質問を制限時間内にどれだけたくさんできるか競うゲーム

【方法】①3人一組になる。②1人が質問を受ける人となり、ほかの2人が順番にその人を知るための質問を交代で行う。1人が連続して質問できるのは2問まで。必ず2人が交互に質問するように。③2分間で、どれだけ数多くの質問と答えができたかを競う。④振り返りを行う。⑤頻繁に行うことで、質問の内容なども変化し、お互いの距離が近づいていく。

「対話の回路を目覚めさせるトレーニング」 テーマに沿って話をし、聞いて喝采してくれた成功体験を得られるトレーニング

【方法】①生徒にとって身近なことをテーマに設定する。②4人くらいの少人数グループを作る。③グループメンバーがそれぞれ順番にテーマについて何か言う。必ず何かひとつ考えを発表するように。④勇気をもって発言したことを称え、メンバー全員が拍手する。⑤グループ全員が言い終わったらハイタッチする。⑥グループを組み替えて同じことを繰り返す。⑦振り返りを行う。

未来へつながる、学びが見えてくる。高校進路指導・キャリア教育の専門誌

リウナビ進学 キャリアガイダンス



- 【好評既刊】**
No.46 2013年5月発行
高校生が社会を知る57の方法
- No.47 2013年7月発行
学習意欲を高め学力につなげる授業改革
- 【今後の予定】**
No.48 2013年10月発行
コミュニケーション力を磨く
- No.49 2013年12月発行
高校生のキャリアデザイン
- No.50 2014年2月発行
保護者は高校生の進路選択にどうかかわる

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています(校長・教頭・副校長、進路指導主事先生宛に郵送)バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career_g/